



ロータリー  
変化をもたらす

2017-2018年度

■会長 愛宕 彰

■幹事 寺田 祐子

例会日: 金曜日 12:30-13:30

例会場: スカイホテル魚津

## 第3102回例会

■点鐘・握手

■ロータリーソング「我等の生業」

■ゲスト並びにビジターの紹介 なし

■誕生祝い 14日: 西村夫人



妻とは昭和55年に結婚してかれこれ40年になりますが、妻の誕生日には薔薇の花束10本を渡しております。毎年色違いの花束と粗品を贈り、妻からバレンタインのチョコをもらっております。大阪に10年、広島に8年半いたときは公共交通機関に花束を持って乗っておりました。私は人生で幸せなことと聞かれると真っ先に妻と結婚できたことと確信をもって答えれます。

■会長挨拶 愛宕会長

今日はいよいよ平昌オリンピックの初日で、平和の祭典を応援していきたいと思っております。また、大相撲はゴタゴタが続いて相撲協会の体質が問われていますが、これもよりよい方向へ向けての過程なのかなと感じております。

2/24は朝日RC主催のIMがありますので、より多くの方に参加頂き、第一分区の他クラブの方と交流していただければと思います。また、5/27には魚津西RCの50周年式典がありますので、極力全員参加でお願い致します。



■幹事報告 寺田幹事

★ガバナー事務所より

・2018年RI年次大会(トロント大会)参加旅行募集案内

2月のRILEート  
\$1=110円

★その他

・第38回魚津しんきろうマラソン開催について(魚津しんきろうマラソン実行委員会)

・社会に学ぶ「14歳の挑戦」推進委員会資料について

■2月例会案内【平和と紛争予防／紛争解決月間】

2月16日(金): 職業奉仕表彰式

[スカイホテル]

2月23日(金): 会員卓話 広瀬君

[スカイホテル]

■3月例会案内【水と衛生月間】

3月2日(金): 会員卓話 寺崎君

[スカイホテル]

3月9日(金): 会員卓話 稲盛君

[スカイホテル]

3月16日(金): 会員卓話 宮本君

[スカイホテル]

3月23日(金): 会員卓話 川岸君

[スカイホテル]

3月30日(金): ゲスト卓話 魚津西RC

[スカイホテル]

会長エレクト 久津谷氏

★2月SAA補助: 池上君・清水君・仙丸君 よろしくお願ひします。

## ■出席報告 平崎委員長

本日の出席	欠席者	3100回メークアップ	3100回出席率
23名	8名	3名	83.33% (←73.33%)



## ■ニコボックス報告 佐藤委員長

- ★平崎君： 久しぶりに卓話の機会を作っていただきありがとうございました。
- ★中田君： 長期に渡り出席できませんでした。申し訳ありませんでした。
- ★寺田君： 火祭りの御鏡のお下がりをお魚津西RCの源七さんでパックにしてもらいました。火の神様をありがたくお受けください。



## ■委員会報告

- ★職業奉仕委員会 中田常任委員長
  - ・来週2/16職業奉仕表彰式実施
  - ・1/27ロータリー財団地区説明会



## 本日の卓話

### 『 天気予報 』

平崎 君

今から2年前の孫の七五三の時に、天気予報を見て11/18に決めたのですが、当日は雨がじゃんじゃん降りまして、頭に来て天気予報の仕組みを調べたことを本日も話します。

天気予報を行う気象庁の総員は5600人位で、キャリアを除く5400人の約半数が気象大学校を出ています。その内事務官はごく一部で、技官がほとんどです。年間予算は600億円位で、一番大きいのは気象衛星関係で70億円位です。

毎日発表される今日の天気予報は、前日17時に発表されたものです。その的中率は、1950年で72%、1975年で79%、2000年で84%です。また、10日前に出される週間予報は2012年からできるようになったのですが、その的中率は、3日後で72%、5日後で69%、1週間後には64%まで下がります。さらに地域によっては52~53%まで下がります。また、1か月後、3か月後の長期予報は、パーセンテージで出されますが、必ず「平年に比べて」という言葉がついています。毎月25日に発表され、平年より多い確率が20%、平年並みが40%、平年より少ない確率が40%という言い方をされますが、10%の確率や60%以上の確率はありません。それと毎年2月にその夏の、また9月にその冬にかけて気温が暑いのか、寒いのかについて発表されます。

天気予報はエネルギー産業や農業関係など多くの経済活動に影響しますが、その方法には、過去のデータに基づく主観的解析と、アメダス等の機器による客観的解析があります。日本の予報は客観的解析が主体ですが一つの事象のデータではなく、いくつかのデータを合わせて予測しています。また予報には限界時間があり、初期の条件をいくら精密にやってもせいぜい2週間で、それ以上の予測は非常に難しいのが実態です。それと15年程前から規制緩和となり、各局で色々な角度からウェザーニュースをやっていますが、台風の進路だけは気象庁の情報一本だけです。気象予報は非常に曖昧な言い方が多く、断定的な言い方はしません。あるテレビ局でヨーロッパの天気予報をもとに日本の予測をしていましたが、規制緩和が進み各社に競争させればもっと精度が上がるのではないかと思います。

つい先日白根山で噴火がありました。日本には活火山が111あると言われており、その内要警戒が38で、立山の弥陀ヶ原もその中に入っています。カメラが設置され、24時間体制で火山に変化があれば中央に情報が送られることになっています。警戒レベルはほとんどがレベル1で、活火山であることに留意となっています。以前噴火のあった御嶽山も今はレベル1です。38の火山は観測が緻密に行われていますが、白根山の場合十数か所に設置された観測機器のわずか500mで爆発が起きました。このように火山の予測も地震と同様非常に難しく、普賢岳も御嶽山も、みんな「やばいよ」と言いながら、実際に噴火を予測した人間は誰もいないというのが実態です。

